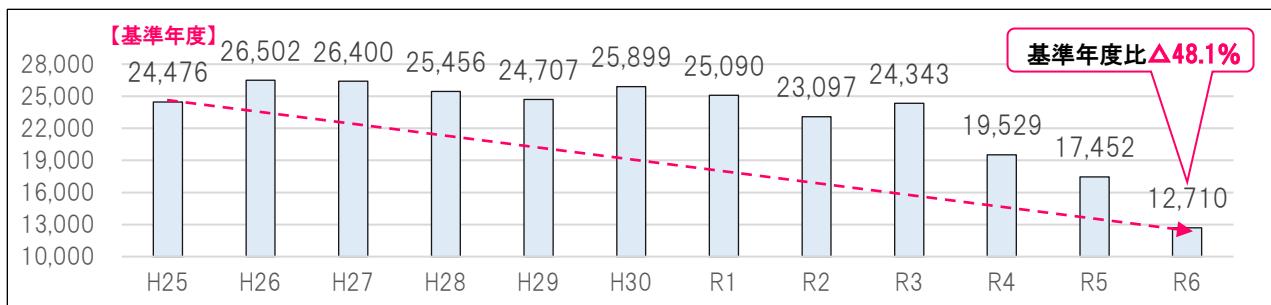


区有施設における二酸化炭素（CO₂）排出量について

1 令和6年度CO₂排出量

(単位:t-CO₂)

年度 排出量	【基準年度】 平成 25 (2013)	令和 5 (2023)	令和 6 (2024)				
			【基準年度比】		【前年度比】		
			増 減	増減率	増 減	増減率	
区有施設	24,476	17,452	12,710	△11,766	△48.1%	△4,742	△27.2%

(参考) 区有施設におけるCO₂排出量の推移(単位:t-CO₂)

2 令和6年度の主な削減要因（前年度比）

- (1) 「環境に配慮した電力」へと切り替えたことによる減
本庁舎等31施設の電力について切替 ... △3,568 t-CO₂
- (2) 「環境に配慮したガス」へと切り替えたことによる減
本庁舎等3施設のガスについて切替 ... △519 t-CO₂
- (3) 街路灯のLED化による減 ... △116 t-CO₂

3 令和7年度以降のCO₂排出量削減の見込み

- (1) 「環境に配慮した電力」へ切り替えることによる減
令和7年4月に概ね全ての区有施設に「環境に配慮した電力」の導入が完了した。
残り8施設については、令和9年度以降に導入を完了する。 ... △約290 t-CO₂
- (2) 「環境に配慮したガス」へ切り替えることによる減
第一分庁舎等3施設に「環境に配慮したガス」を導入する。ガス由来のCO₂排出削減に向けて、ガス事業者と導入拡大に向けて協議を行う。 ... △約186 t-CO₂

4 区有施設におけるCO₂削減目標達成への状況

令和7年度は、新宿文化センターと牛込保健センターの工事が完了し、再開することでCO₂排出量の増が想定される。また、近年、夏季の気温が高く、学校の教室での冷房の利用期間・回数が増えている。学校の空調にはガスヒートポンプを利用していることから、ガスの使用量が増えており、使用量が増加傾向にある。

このため、令和6年度のCO₂排出量は平成25(2013)年度比で48.1%減と、目標の50%減に近くなったが、排出量が増えることも見込まれる。

こうした状況を俯瞰すると、第三次環境基本計画(改定)で掲げた「令和12(2030)年度に区有施設でのCO₂排出削減量50%」の目標を当面維持する。今後、電力以外のガス、ガソリンなどのエネルギー使用量の削減に加え、Jクレジットの活用や庁舎への太陽光発電設備の導入などオフセットにも取り組む必要がある。